

# スポーツのチカラ まちのミライ

vol.18

2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会が実現すると、私たちの街・札幌はどのような姿へと変貌を遂げるのでしょうか？  
ノーマライゼーションをテーマに活動するアーティスト・Satolyさんにお話を伺いました。

すべての垣根を越えアートの力で  
世界中の子どもたちの夢を応援したい



アーティスト・吉本興業(よしもとアーツ)所属

Satoly さん

サトリー

1985年生まれ、釧路市出身。正看護師として5年間の勤務を経て、2013年から本格的にアーティスト活動を開始。障がい者のためのワークショップを国内外で開催し、ノーマライゼーションをテーマにアートを通して誰もが暮らしやすい社会の実現を目指している。

取材協力: Satoly art world展 in北海道(22/9/12で会期終了)(札幌三越)

癒しの力と表現する楽しさで  
子どもたちの可能性を広げたい

様々な困難を抱える世界中の子どもたちの心をアートで癒し、表現する楽しさを伝えたい。アートを通じて、障がい者も健常者も区別せず社会生活を共にする「ノーマライゼーション」の理念を広めたい。そんな想いから、約10年前に障がいを持つ国内外の子どもたちとともにアートを制作する『Satolyプロジェクト』を始めました。今まで世界19カ国1万人以上の子どもたちと一緒に作品を作り、障がい者アートの価値を高める活動として、全国各地で展示販売を行なっています。また、障がいを持つ途上国の子どもたちにスポーツ用品等を届ける取り組みも行なっていて、モンゴルの盲学校に、日本でも必要になった柔道着を届けています。

アートもスポーツも自己表現のひとつ  
冬季オリパラで夢の後押しを

アートもスポーツも、手段は違えど同じ自己表現のひとつです。全力で取り組み夢を追いかける姿がたくさんの人の心を動かして、また誰かの一歩踏み出す勇氣につながる。オリパラはまさにその象徴であり、子どもたちの夢そのものです。私自身、どん底だった時にアートの救われ、家族や仲間たち、支援者やファンのおみなさんに支えられ、夢を応援してもらって今があります。その恩返しではありませんが、ハンディがあっても全力で頑張る人たちの力になりたくて活動を続けています。2030年冬季北海道・札幌オリパラが実現したら、アートを通じた様々な取り組みで、地元の子どものたちはもちろん、世界中の子どもたちの夢を拓くお手伝いできたらうれしいです。

問い合わせ先

札幌市スポーツ局招致推進部調整課 ☎011-211-3042



食や自然など多くの魅力に恵まれた  
「笑顔になれる街」さっぽろをイメージしたロゴです

問い合わせ先

札幌市総務局広報部広報課 ☎011-211-2036